

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2376500324		
法人名	有限会社 あおいの里		
事業所名	グループホームあおいの里		
所在地	愛知県豊川市伊奈町縫殿26番地132		
自己評価作成日	平成26年 8月10日	評価結果市町村受理日	平成26年10月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kani=true&amp;JiyousoCd=2376500324-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kani=true&amp;JiyousoCd=2376500324-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F
聞き取り調査日	平成26年 8月28日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

「その方らしく、地域の中で普通に生活すること」という事業所の理念を礎に、施設入居したからといってこれまで営んできた生活が途切れてしまわないよう努めている。また、「介護される側」「介護する側」という一方的な立場ではなく、利用者と職員が共に生活し、時には利用者に教えて頂き、時には利用者を頼りにする関係を大切にしている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その方らしく、地域の中で普通に生活すること」を理念とし、施設に入居したからといって、これまでの生活が途切れてしまうことのないよう努めている。理念については毎月の職員会議にて確認し、共有できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のお店へ買い物や外食・喫茶に出掛けたり、公園へ散歩へ行ったり、地域のサロンに出掛けたりといったことを日常的に行い、事業所自体が地域の一員として交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティア事業や社会福祉体験事業等に必要な情報を提示したり提案している。運営推進会議では地域の民生委員の方やご家族の方に対して認知症の理解や支援の方法を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1度(奇数月)行い、運営状況等の報告、参加者との意見交換等を行うことで、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	豊川市高齢者地域見守りネットワーク事業を通じ、市町村担当者と日頃から連絡を取り、協力関係を築いている。要介護認定の更新や入退居があった際には申請書・連絡票等を市町村窓口を持参し、報告・連絡等を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束についての理解を深めるため、研修会を行っている。居室に鍵をかけず、利用者の意思を尊重し、自由に行動できるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての研修会を行い、理解を深めると共に、虐待防止に注意を払い、見逃されることがないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人代表や管理者、職員が認知症介護指導者研修、リーダー研修、実践者研修など各種の研修に参加している。また研修で習得した内容は勉強会等を通して事業所内で情報共有できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結に際しては、事前に施設を見学して頂き、施設の理念や現場の状況、料金などを説明し理解して頂いてから行っている解約は家族側から自由にでき、違約金は掛からない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見や希望・要望を聞き取り、共有する手段として「みんなの声」というノートを作成している。日頃の何気ない会話の中から利用者の要望を汲み取れるよう配慮をしている。ご家族とは面会の際に気軽に話ができる雰囲気づくりをし、意見や希望があった際には反映できるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・管理者・職員で構成される会議を毎月開催し、職員の日常の気づき・提案を基にして話し合いを進めている。事業所の運営は概ね職員の意見・気づきによって成り立っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するために、積極的に現場に目を向けるようにしている。職員ごとに担当利用者を決めたり、担当業務を決めることで、やりがいや向上心を持って働けるよう工夫している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県の研修や豊川市介護保険関係事業者連絡協議会の研修などを利用して、知識や技術の取得や向上を図るようにしている。また法人内で研修を実施している他、外部研修への助成制度を法人で設け、働きながらトレーニングする環境を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	豊川市介護保険関係事業者連絡協議会(施設部会)を利用し関係作りや勉強会を行ったり、情報交換をする事で互いのサービスを向上させる事ができるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用前に本人と面談を行い、本人の困っている事、不安なこと、要望、現状の生活などを把握している。また可能であれば短期利用、認知症対応型通所介護(共用型)を利用をして頂くことで関係の構築に努め、入居後も不安なく利用できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談、施設見学、自宅訪問など、複数回話を聞く機会を設ける事で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等を把握している。可能であれば短期入所や認知症対応型通所介護(共用型)をして頂き、施設について良く知って頂くようしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用前に事前面談、施設見学、自宅訪問など、複数回話を聞く機会を設ける事で、アセスメントを行い、本人・家族等が「その時」必要としている支援を見極め、より良いサービス提供が行えるようしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「私たちは時にはお年寄りに教えて頂き、時には頼りにし、共に生活していきます。人は頼りにされ、誰かの役に立つときが一番輝く時だと思うからです」をモットーに、暮らしを共にするものとして支え合う関係を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族からの希望は本人と同じように大事に考えるようになっている。面会の際等、家族等が気軽に話のできる雰囲気づくりに努め、本人と家族のきずなを大切にしながら共に支えていく関係作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設入居したからといって、その方がそれまで培ってきた関係が途切れることのないよう、生活の継続性という点に重きを置いている。知人や友人が気軽に面会に来られるような雰囲気作りをし、入居後も関係が継続できるように努めている。また入居前から通っていた馴染みの店の情報を得て出掛けるなどしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士もまた暮らしを共にする者として、お互いに支え合う関係作りを大切にしている。利用者個々の性格や相性などを把握し、気の合う方同士で話ができるよう位置関係を配慮したり、利用者同士の触れ合いや個々の役割を持てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方の移住先の関係者に、必要な情報を提供し、移り住んだ先での生活がスムーズに移行されるよう支援している。入院中の方のお見舞いに伺ったり、家族との連絡を取る等、経過をフォローしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	前述の「みんなの声」にて利用者の希望・意向把握に努めている。ご自分で希望を言う事ができない方に対しては、仕草や本人の反応等のサインを読み取り、生活に生かせるよう工夫している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族・関係者からの聞き取りを行い、これまでの生活歴、人間関係や馴染みの店・暮らし方、生活環境、サービス利用の経過等の把握を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントには「出来ること出来ないことシート」を用い、24時間の生活を通して心身の状態把握・有する能力の把握ができるようしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議には、本人、管理者、計画作成担当者、介護スタッフ、また家族や主治医にも参加して頂き、それぞれの意見や提案を反映し、介護計画を作成している。利用者の状態が常に変化するものであることを職員は理解し、日々のアセスメントを行う事で現状に即したケアが実施できるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践・結果、職員の気づきや工夫を個別の介護記録にまとめ、職員間での情報共有・プランの実践および見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	短期利用、認知症対応型通所介護(共用型)といったサービスを持っている事を活かし、本人や家族の状況、その時々意向・要望に合わせて、柔軟な支援をしている。認知症対応型通所介護では必要に応じて3食の食事の提供、延長利用も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティアの受け入れを定期的に行っているほか、不定期でのボランティアの受け入れを行っている。自治体による訪問理容、訪問マッサージなどの介護保険外サービスの情報も把握できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に応じて入居前に受診していたかかりつけ医と施設協力医療機関である北遠東三在宅診療所のどちらでも診療が受けられるようにしている。また専門科についてはその都度家族や主治医と相談し、受診できるように努めている。家族が受診介助を行う場合に経過を詳細に伝え、適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は利用者の些細な変化を見逃さないよう努め、施設内に勤務する看護師に必要に応じて報告している。看護師は日常的な利用者の健康管理のほか、関係医療機関等との連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には医療機関関係者との情報交換や相談を行ったり、お見舞いに伺ったりして、入院中に安心して過ごせるよう、またできるだけ早期に退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を入居の際に本人・家族等と共に話し合い、文書で共有している。家族等の考え方や方向性に変化が生じた場合、本人の状態が変化した場合など、必要に応じて都度話し合い、変更等対応できるようにしている。主治医とは受診時に本人・家族等の希望などを伝え方針を共有するようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを整備し、事故発生時・緊急時に対応できるようにしている。職員は事故の予防や発生時の対応について、研修会を行い、理解を深めて実践に活かしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画・地震防災規程を整備するとともに避難訓練(総合訓練)を年2回実施し、日中・夜間・火災・地震等の様々な想定で行っている。消防に消防設備点検報告書を年1回提出している。消火器、スプリンクラー、緊急通報装置、火災報知器を設置し環境整備を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護マニュアルを整備し、内部研修を行う事で理解を深め、実践に活かしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	前述「みんなの声」を作成し、利用者の希望や要望を書きとめ、職員間で情報を共有し実現に向けて活用している。直接希望を聞き取るという手法ではなく、日常会話の中から抽出したり、言語による希望表出の困難な方に対して本人の仕草や表情などちょっとした変化を見逃さないようにし、その中から希望抽出することで、自己決定に繋げている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先するのではなく、その方に合ったペースを大切にしている。その方のペースや希望を読み取るために「みんなの声」を活用している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日着る服を自己決定にて選んでいただけるよう、その方の能力に合わせた支援をしている。外出時や行事の際などは「よそ行きの服」を選んで頂き、より楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の考案、食材仕入れ、調理、配膳準備、食事摂取、片付けなど各場面において利用者と職員と一緒にいき、生活を共にする者として食の楽しみを共有している。利用者毎の能力を把握し、その方に応じた参加の仕方、役割が持てるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作った献立を基本にして、随所に利用者の希望を取り入れている。個々の嚥下機能等、能力や状態に合わせて食事形態等を工夫すると共に、個別に食事摂取量の記録、必要な方には水分摂取量の記録も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方の能力・状態に応じて、毎食後に口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗を減らし、トイレでの排泄・排泄の自立ができるよう、排尿パターンの把握、適切なタイミングでのトイレ誘導の声かけ等を行っている。誘導時は自尊心に配慮し、人前でのあからさまなトイレの声かけを行わない等、工夫している。排泄の経過を個別に記録している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別の排泄チェック表により便秘など状態を把握し、便秘傾向にある方に対しては、水分摂取の確保、運動の機会確保、食事の工夫等、便秘予防を支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	特に時間・曜日等は決めず、本人希望に沿って入浴して頂いている。同性介助、異性介助など本人の意向があれば対応できるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠ができるように、日中活性化を促している。不眠の訴えがある方に対しては、職員が話し相手になる等、リラックスできるような働きかけを行っている。その方の生活習慣や状態に合わせて、適度な昼寝をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別のカルテには薬の目的や副作用、用法や用量について記載のある薬剤情報を綴じ、情報共有している。薬の作用・副作用に注目し、症状の変化を見逃さない様確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族や本人から聞き取った生活歴を参考にすると、他、前述の「みんなの声」を活用し、行きたい場所、食べたい物など、その方が今持っている希望や意向を把握し、役割・楽しみごとに反映できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・買物など日常的な外出は、できる限り時の気分・希望に応じて実施できるよう努めている。外食・喫茶・季節の外出・日帰り遠足などにも本人と相談しながら出掛けている。外出先を選ぶ際には「みんなの声」を活用している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の有する能力に合わせて、自分で扱える範囲の金銭を所持して頂き支払もして頂く等の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話機も居間の分かりやすい場所に設置しており、いつでも使用できる。操作等が自分で難しい場合は職員が仲介する等、必要な援助を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間では複数の音が重複して混乱を招かないよう、テレビの音、オーディオの音楽等が重ならない配慮をしている。自然色の柔らかい照明、カーテンの利用などによって明るさが刺激とならないよう工夫している。家庭的な雰囲気を損ねない程度の季節の飾りつけにより、落ち着いた生活が送れるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階フロアを家具で仕切り、テーブル席とソファ席を設けている。2階にもテーブルの1ヶ所を設け、思い思いの場所で過ごせるようになっている。また気の合う利用者同士で過ごせるよう席の配置等を配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人・家族が希望する使い慣れた馴染みの物を持ち込んで頂き、本人が心地よく過ごせるようしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1階部分は段差のないバリアフリー構造になっている。物干しの高さ調節、随所の手すりの設置など一人ひとりの身体機能に合わせた対応ができる作りになっている。一人ひとりの「出来る事」「分かること」をよくアセスメントし、有する能力を活かしつつ、安全かつ自立した生活できるよう工夫している。		